



# 大学院だより



修了式を終え満面の笑みの大学院生たち

## 大学院修了式

平成25年3月15日に第3回大学院修了式が118期生卒業証書授与式と合同で行われた。ガウンに身を包んだ大学院生たちの姿は、これから歯科医師として歩み出す118期生にも輝いて映ったことでしょう。修了式では修了生代表として歯科麻酔学講座の黒田英孝大学院生が井上大学院研究科長より修了証を授与された。



修了証を授与される黒田英孝大学院生



第3回大学院修了式



体育館にて恩師とともに



修了証を手に大学院役職者と



憧れの帽子投げ！ちゃんとキャッチしてくださいね

## 修了生代表

研究って、おもしろい！？

歯科麻酔学講座 4年 黒田 英孝

「私は臨床をやりたいから、研究はちょっと…」とか、「研究とか実験ってつまらなそう…」とかを理由に、大学院へ進路を選ばない人、研究をしたがらない人が多くいます。かくいう私も、学位は欲しいけど、研究にはそこまで興味はなかった一人でした。でも研究って意外と、おもしろいんです。大学院4年間を通じてたくさんのことを学びましたが、一番驚愕したことは、Evidence-based medicine: EBMがうたわれている今日ですが、evidenceのないことが数多くあり、日常の臨床の中にもevidenceのないことが存在することでした。大学6年間で勉強したことでは、説明できない事象がまだまだあるのです。私の学位論文は「痛み」に関する研究です。「どうして痛みを感じるのか」や、「どのように痛みがコントロールされているのか」など、解明されていないことはたくさんあり、その一端を担う研究でした。自分の出した実験結果が医療のevidenceを作っている、自分の研究が歯科医学という学問の歯車の一部になるって、スケールが大きくて、とてもおもしろいと思いませんか！？そんなことを感じる事ができた4年間は、私にとってとても有意義な大学院生活でした。

ある講演でとても感銘をうけた言葉があります。それは「臨床中心の日々でもresearch mindを持ち続けていたい」というフレーズです。漫然と歯科医療を行うのではなく、日常の中での疑問に対して探究心を持っていこうということです。大学院4年間で、私もこの“research mind”を学び、新しい知見を得て考察する楽しさを知りました。「大学院は研究指導者や、高度な専門知識を備えた専門職業人であるsuper dentistを育成するところだ」と、4年間を通じて井上大学院研究科長がいつもおっしゃっていました。大学院を修了したこれからも、このresearch mindを持ち続けて、super dentistとなるべく、日々精進していけたらと思っています。



講堂前にて笑顔の大学院生たち

## 大学院修了式 懇親会開催

解剖学講座 4年 中尾 正

平成24年度、38名の大学院生が大学院課程を修了しました。これもひとえにご指導頂いた先生方のおかげであり、ご謝恩の意を込めて、これまでお世話になった先生方をお招きして、平成25年3月15日(金)大学院修了式後の13時から厚生棟2Fレストランで大学院学生会主催による懇親会を開催しました。

大学院学生副会長の中尾正(解剖学講座)が司会を務め、井出吉信学長のご挨拶で会が始まりました。続いて井上孝大学院研究科長、金子譲理事長からご挨拶を頂戴した後、宮地建夫同窓会副会長より同窓会長賞の授与が行われました。本年度の受賞者は黒田英孝(歯科麻酔学講座)、山田祐介(有床義歯補綴学講座)の2名でした。続いて東俊文大学院教務部長からのご挨拶、末石研二大学院生部長から乾杯のご発声を頂きました。

大学院過程を修了した大学院生は、本学の助教となる者、ポストドクトラル・フェローとなる者、レジデントとなる者、歯科医院に勤務する者、他大学に行く者など、進路は様々ですが、皆、約4年間の大学院生活を振り返りながら、改めてご指導頂いた先生方との懇親を深めていました。歓談の中、同窓会長賞受賞者の2名のスピーチに続き、突然指名を受けた岸飛鳥(解剖学講座)、西村孝太(口腔インプラント学講座)が大学院生活の苦労話や思い出話を皆の前で語りました。最後に大学院学生会長の安村敏彦(歯科矯正学講座)の挨拶をもって閉会となりました。

大震災からはや2年、いまだ多くの爪痕を残したままです。こうして無事に式を終えることができたのも、教職員の方々やご父兄の方々、関係者の方々の多大なるご支援の賜物と大学院生一同感謝しております。



厚生棟 2階にて懇親会



同窓会長賞を受ける黒田大学院生



井出学長を囲んで



同窓会長賞受賞の山田祐介大学院生  
(有床義歯補綴学講座)



挨拶をする西村孝太大学院生  
(口腔インプラント学講座)



これまでの思い出を語る岸飛鳥大学院生  
(解剖学講座)



大学院学生会長の安村敏彦大学院生  
(歯科矯正学講座)

## 大学院学生会より

平成 24 年度大学院学生会長 歯科矯正学講座 4 年 安村 敏彦

平成 24 年度、東京歯科大学大学院歯学研究科の学生会長を務めさせていただきました。前任である石塚洋一先生にアドバイスをいただき、そして多くの諸先生方のご協力によって、学生会の活動がより活発になってまいりました。

昨年 7 月に大学院学生総会を開催いたしました。当日は井出吉信学長、井上孝大学院研究科長、東俊文大学院教務部長、末石研二大学院学生部長の立ち会いのもと、過半数を超える 82 名の大学院生が出席しました。今後の大学院学生会の活動方針を主な議題とし有意義なものとなりました。そしてこれまで大学院学生総会の開催は年に一度でしたが、今年の 3 月にも開催する事が関係者の協力によって行う事ができ、平成 24 年度の活動報告、会計報告と共に平成 25 年度の学生会長と副会長を選出いたしました。

平成 24 年度の大学院修了式は東京歯科大学の学部生と合同で行われました。大学院歯学研究科博士課程を修了した 38 名がアカデミックガウンを着て登場した姿は学部生を刺激し、大学院へ進みたいと思わせたに違いません。我々修了生一同は伝統ある東京歯科大学大学院を修了した事を誇りに思います。ご指導していただいた先生方に受けた恩を返すべく、世界でリーダーシップをとる研究者、歯科医師、そして教育者として新しい時代を造り活躍していきたいと思っております。

これまでご指導くださいました井出学長をはじめとする諸先生方、職員の皆様に重ねてお礼申し上げますと共に、皆様のご健康と東京歯科大学の更なる発展を祈念し挨拶とさせていただきます。

## 平成24年度 大学院生修了者氏名および学位論文

	学位記番号	氏名	学位論文題名
1	1972号 (甲1216号)	岸 飛鳥 解剖学	Gene and protein expressions of vimentin and desmin during embryonic development of the mylohyoid muscle
2	1976号 (甲1217号)	中尾 正 解剖学	Site-dependent difference in the density of sympathetic nerve fibers in muscle-innervating nerves: a histologic study using human cadavers
3	1977号 (甲1218号)	原 有沙 臨床検査病理学	Comparative study of BSC-OF and HSC-4: Expression pattern of MMP-1 and connexin-43 in oral cancer cell lines
4	1978号 (甲1219号)	Ana Tricia Moreira 臨床検査病理学	Functional expression of RANKL and OPG in rat periodontal ligament cells in response to mechanical force <i>in vivo</i> and <i>in vitro</i> .
5	1979号 (甲1220号)	飯島 俊彦 口腔インプラント学	Influence of surface treatment on cyclic fatigue strength of yttria-stabilized tetragonal zirconia polycrystal with hot isostatic pressing
6	1980号 (甲1221号)	黒田 英孝 歯科麻酔学	Sodium-Calcium Exchangers in Rat Trigeminal Ganglion Neurons
7	1981号 (甲1222号)	副島 寛貴 歯科理工学	Effect of adhesive system on retention force in posts comprising fiber post and core resin
8	1982号 (甲1223号)	松本 達事 口腔インプラント学	Relationship between preferential alignment of biological apatite and Young's modulus at first molar in human mandible cortical bone
9	1983号 (甲1224号)	菊地 昭仁 解剖学	Expression of Intermediate Filaments in the Development of Genioglossus Muscle
10	1984号 (甲1225号)	神戸 宏明 歯科麻酔学	Effect of the changes in end-tidal carbon dioxide tension on oral tissue blood flow during remifentanil infusion in rabbits
11	1985号 (甲1226号)	中村 瞬 歯科麻酔学	A new topical anesthesia method using a patch with an anesthetic solution
12	1986号 (甲1227号)	山田 裕介 有床義歯補綴学	Reduction of biofilm formation on titanium surface with ultraviolet- C pre-irradiation
13	1987号 (甲1228号)	堀内 章 歯科保存学	Synergistic biofilm formation by <i>Parvimonas micra</i> and <i>Fusobacterium nucleatum</i>
14	1988号 (甲1229号)	森川 貴迪 口腔外科学	Retrospective study of radiation-induced on parotid glands in patients with head and neck malignant tumor receiving carbon ion radiotherapy

	学位記番号	氏名	学位論文題名
15	1989号 (甲1230号)	内山 宙 有床義歯補綴学	Optimized ultraviolet-C irradiation energy for functionalization of titanium surface to increase osteoblastic cellular attachment number
16	1990号 (甲1231号)	山崎 真 有床義歯補綴学	Ultraviolet-C treatment increases supporting bone formation with substantial mineralization around titanium implants
17	1991号 (甲1232号)	松本 直也 歯科理工学	Effect of intermediate ceramics on bond strength between tetragonal zirconia polycrystal and veneering ceramics
18	1992号 (甲1233号)	岡林 茂慶 クラウンブリッジ補綴学	Influence of proximal supportive design of zirconia framework on fracture load of veneering porcelain
19	1993号 (甲1234号)	三枝 弘樹 微生物学	Minor fimbriae of <i>Porphyromonas gingivalis</i> are one of the factors for coaggregation with <i>Treponema denticola</i>
20	1994号 (甲1235号)	佐々木 秀憲 歯科放射線学	Potential of fluid-attenuated inversion recovery MRI as alternative to contrast-enhanced MRI for oral and maxillofacial vascular malformations: Experimental and clinical studies
21	1995号 (甲1236号)	川口 潤 歯科麻酔学	Stellate ganglion block prolongs the latency and reduces the amplitude of trigeminal somatosensory-evoked potentials on the contralateral side
22	1996号 (甲1237号)	有泉 大 歯科矯正学	Craniofacial morphology in hemifacial microsomia using three-dimensional coordinates
23	1997号 (甲1238号)	村山 雅人 口腔外科学	An experimental study on the electrophysiological evaluation of nerve function in inferior alveolar nerve injury -the relationship between nerve action potentials and histomorphometric observations-
24	1998号 (甲1239号)	長谷川 賢 スポーツ歯学	Does clenching reduce indirect head acceleration during rugby contact?
25	1999号 (甲1240号)	永田 順也 歯科矯正学	Influence of with or without interval period on root resorption due to orthodontic force
26	2000号 (甲1241号)	坂本 豊明 口腔健康臨床科学	Autonomic nervous activity of patients with gagging problems during dental mirror insertion
27	2001号 (甲1242号)	吉田 佳史 オーラルメディスン・口腔外科学	Relative factors of late cervical lymph node metastasis in patients with stage I or II oral squamous cell carcinoma
28	2002号 (甲1243号)	関根 理予 口腔外科学	A study on the intrapapillary capillary loop detected by narrow band imaging system in early oral squamous cell carcinoma
29	2003号 (甲1244号)	真壁 康 口腔インプラント学	The comparison of gene expression between peri-implant soft tissue and oral mucosal tissue by microarray analysis

	学位記番号	氏名	学位論文題名
30	2004 号 (甲 1245 号)	西村 孝太 口腔インプラント学	Influence of titanium ions on the cytokine levels of murine splenocytes stimulated with periodontopathic bacterial lipopolysaccharide
31	2005 号 (甲 1246 号)	金子 創 口腔インプラント学	Influence of thin carbonate-containing apatite coating by molecular precursor method to zirconia on osteoblast-like cell response
32	2006 号 (甲 1247 号)	米倉 智子 小児歯科学	Identification, Characterization and expression analysis of dentin matrix protein 1 (DMP1) gene in an amphibian, <i>Xenopus laevis</i> .
33	2007 号 (甲 1248 号)	児玉紗耶香 歯科放射線学	Signal intensity on fluid-attenuated inversion recovery images of condylar marrow changes corresponding with slight pain in temporomandibular joint disorders
34	2008 号 (甲 1249 号)	松平 晶子 オーラルメディシン・口腔外科学	Characteristic cytokeratin expressions in upper layers of epithelial dysplasia adjacent to tongue carcinoma
35	2009 号 (甲 1250 号)	安村 敏彦 歯科矯正学	Expression of RANKL and OPG mRNAs in rat periodontal ligament cells following mechanical stress and co-culture with rat dental pulp cells <i>in vitro</i>
36	2010 号 (甲 1251 号)	伊藤 幸太 歯科保存学	Hypoxic condition promotes differentiation and mineralization of rat dental pulp cells <i>in vivo</i>
37	2011 号 (甲 1252 号)	小笠原龍一 口腔インプラント学	Influence of Oral Administration of Simvastatin on Bone Formation in Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rat
38	2012 号 (甲 1253 号)	岩本 昌士 口腔外科学	Characterization of microorganisms in odontogenic infection lesions by terminal restriction fragment length polymorphism analysis

※題名は、学位論文審査時のもの



井上研究科長より修了証を授与される安村敏彦大学院生

# Elective Study 体験報告

本年度大学院 Elective Study は鹿児島大学との共同開催の下、5つのコースが開催された。前号ではカリフォルニアコースの報告をしたが、今回はハワイ、シンガポール、香港の海外研修基礎コースに参加した大学院生からの報告を頂いた。ハワイは臨床検査病理学講座の松坂先生、シンガポールは歯科矯正学講座の茂木先生、香港は生化学講座の岡田先生が引率の任に当たられた。

## 海外研修基礎コース in ハワイ 2/13-18 (5泊6日)

オーラルメディシン・口腔外科学講座 3年 佐藤 絵美子

帰りの飛行機では、問題なく研修を終えた安心感の中で、今回の経験で得られた今後の課題について考えていました。個人旅行では体験できないことばかりですので、今回のプログラムに参加させて頂いたことに感謝しています。

ハワイ大学では、いくつかの講義からなる研修プログラムへの参加をしました。そのなかでも印象深かったのは、観光業が盛んなハワイならではの観光学の講義です。その中で、“あなたの街の観光の強みは何か”についての発表を行いました。とても緊張しましたし、千葉の何をアピールすればいいのか悩みましたが、討論形式の講義は、相手の反応が得られ、とても面白かったです。

タイトな予定の疲れを吹き飛ばしてくれる気候や、Aloha の精神を持った人々に魅了されました。ハワイの素晴らしさはもちろんですが、日本の素晴らしさについても改めて気付かされました。世界に日本の素晴らしさを発信できるように、語学だけでなくプレゼンテーション力を習得するのが今後の私の課題です。

解剖学講座 1年 大峰 悠矢

今回の海外研修では多くの現地訪問がありましたが、筆者が最も重要と感じた事項を述べさせていただきます。

ハワイ大学マノア校における対話についての講義では、まさに臨床現場における事柄が述べられました。なぜなら歯科医師-患者関係の始まりはこの対話に始まり、ときにポジティブな「診断」をもたらすことがあります。講師の先生のお話では対話やコミュニケーションはあたかも織物が紡がれるが如く、各々のパーソナル・スペースを埋めあうことである、と仰っていましたが、これはまさにラポールの形成に他ならないと言えるでしょう。

次いで、ホスピタリティについての講義はまさに刺激を受けることが多くありました。一般的には、病院や診療所におけるホスピタリティは近年、重要視される傾向にあります。しかしながら、昨今の医療から「サービス」と「ホスピタリティ」の違いについての問題を抱かずにはいられません。最後になりましたが、今回の貴重な経験を戴いた大学に深い感謝の意を表します。また、海外研修期間中の先生方のご配慮とご支援に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

解剖学講座 1年 笠原 正彰

私は大学卒業後に留学を志していたが、何の目的で行くのか何をしたいのかという考えが今一つはっきりしておらず、ただ国際交流をしてみたいといった、どちらかという憧れに近い気持ちが先行していた。しかし、今研修を通じてそのような意識は大きく変化した。

具体的に、私はこの研修で得た成果を3つに大別しており、一つは「現地の歴史・風土・文化の学習」、二つは「国際的な視点・知識・教養の獲得」、最後は「国際交流を通じた語学力・

コミュニケーション力の養成」である。それぞれ博物館や施設の見学、現地の方の授業や学生達との交流、海外で活躍されている方々の話を聞かせて頂くなど、他では得ることのできない大変貴重な体験であった。

最後に今研修は意識の変化、意欲の更なる向上という点で非常に有意義であった。また、将来の留学に向けての第一歩となったことを感じており、自分の中でかけがえのない経験であったことを確信している。



## 海外研修基礎コース in シンガポール 3 / 6 - 10 (4泊5日)

口腔外科学講座 2年 重政 理香

私が研修に参加した理由は、シンガポールに行ってみたかったという単純なものでした。

今回、ほとんどの時間を講習・ディスカッションに費やしましたが、勉強の一環として観光もでき、小さな国土にギュッと多民族文化が凝縮され、災害のない地理であることから自由な建築ができる国だと思いました。

研修では、五洋建設・バイオポリスの理研・シンガポール国立病院で活躍している日本人の講習を受けることで、日本人の技術が評価されていることを知り、日本人としての誇りを持ちました。しかし一方で、日本人は英語会話ができないというイメージが強いことを知りました。

シンガポールの企業や大学生とのディスカッションにおいて、様々な人と交流することで、自分自身の視野を広げることも、他人の視野を広げることもできることを改めて学び、人との交流は貴重な財産であると強く感じました。

つまり、様々な人と交流するためには、世界の共通語になりつつある英語はしっかり学ぶ必要があります、どんな境遇においても前向きに努力し、積極性を持ってチャレンジしていくことで道は開けていく、そんな人生について考える期間でした。

微生物学講座 1年 藤瀬 和隆

今回、東京歯科大学の大学院 Elective study の一環として、鹿児島大学、福岡工業大学の大学生と共にシンガポールでの海外基礎研修に参加してきました。今回の研修では、4泊6日の中で10か所以上に渡る場所をかなりタイトな日程で回ってきました。研修先としては国立博物館や都市開発庁など施設の見学、五洋建設や理化学研究所などの現地で働く日本人の方々の講義、シンガポール国立大学の学生とのディスカッションを通じた交流、リトルインディアやアラブストリートなどの街並みの見学など多岐に渡るものでした。現地の学生との交流では英語力や理解力の高さを目の前で見ることができました。また街並みに関しては、シンガポールは地震が起きないという理由から奇抜とも言える自由なデザインの建物が目につきました。街ゆく人々は多民族国家だけあり様々な人種を認めました。勢いのある都市国家シンガポールの基盤を肌で感じる事ができ、とても刺激的な研修となりました。



## 海外研修基礎コース in 香港 3 / 10 - 14 (4泊5日)

小児歯科学講座 1年 江木 勝彦

三月十日から十四日まで、鹿児島大学主催の『海外研修基礎コース in 香港』に参加した。昨今の日中関係を反映し、参加希望者が少なかったようでカリフォルニア研修では総勢50人を超えた参加者数も香港は4人であった。実際には香港の人たちは親日的であり中国とは一線を画した identity を有している。

研修は主に企業と大学そして、産学連携の組織を見学しそれぞれの首脳陣との discussion を通じて行われた。香港は大学に絶対数が少なく学歴に対する競争が熾烈である。今回訪問したのは香港大学の建築学部と歯学部、香港中文大学ではビジネススクールを見学した。どちらも学生が勉強しやすい環境を整えており非常に好奇心の強い学生が多かった。英語での授業が行われるため学生も様々な国から集まっている。

その他、日本の建設会社、日本企業の商工会議所、富裕層の資産運用を行うシンガポール銀行などを見学し多くの刺激を受けた。このような機会を与えてくださった関係者各位に感謝いたします。



## 編集後記

大学院だより6号をお届けいたします。本号は修了式と年度末に行なわれた Elective Study の報告を掲載しました。修了生の多くの方には、1日も早く、アカデミックガウン姿にふさわしい論文を完成され、学位記を手にする事を期待しています。また、海外での研修を行なわれた方にはこれを機に国際的に活躍できるように、研鑽を積まれる事を希望いたします。第6号の編集に協力してくれた飯島大学院生に感謝します。(末石 記)